

2010年度 第1回 環境災害対応委員会 議事録

2010年5月28日 12:30 - 13:20 203室

出席委員：松本 淳（委員長：議長）・吾妻 崇（日本活断層学会）・石原正仁（日本気象学会）・卜部厚志（地学団体研究会）・小田啓邦（地球電磁気・地球惑星圏学会）・近藤昭彦（日本リモートセンシング学会）・須貝俊彦（日本地理学会：書記）・田力正好（日本第四紀学会）・田所敬一（日本地震学会）・林 武司（日本水文科学学会）・真木雅之（日本水文水資源学会）・宮腰昭暢（日本地熱学会）・目代邦康（地理情報システム学会）（計13名）

1. 連合における昨年度からの活動（報告事項）

- ・これまで連合大会では地球人間圏セクションで「人間環境と災害リスク」セッションを開催してきた。今年度の大会では、日本地理学会、地理情報システム学会、日本第四紀学会、日本国際地図学会、日本地質学会の共同コンビナーおよび日本火山学会中村洋一会員が共同コンビナーとなり複数学会の共同での同セッションの開催を実施した。
- ・今年度の大会では、本委員会主催で「チリ沖地震」緊急ポスターセッションを開催した。
- ・社員総会資料などにも書かれているように、災害への対応・社会への発信は、連合の活動の柱でもあり、本委員会の活動の活性化が必要である。

2. 今後の活動について（審議事項）

★来年度連合大会

①従来の「人間環境と災害リスク」を含め、「環境」の側面からも本委員会が中心となりセクション横断的なセッション提案を充実させる必要が提起され、来年度大会での候補として以下の3件があげられた。

- ・都市型水害（真木）：MPレーダーの活用へむけたプロジェクトの紹介的要素を含め、都市開発などとの関連付けもできると良い。近年の重要なテーマであるので、気象学会からも共催の形で参加することを検討する（石原）。
- ・宇宙天気（小田）：電離層の乱れがGPSの精度低下をもたらす社会的に影響が大きいことから、パブリックセッションを開催し、啓発活動にも貢献することをめざす。
- ・人間環境と災害リスク（須貝）：今年度の複数学会開催の成功を活かして、さらに共催する学会を広げることも視野に入れて検討する。

セッション提案は本委員会の中心的責務のひとつであり、上記3件については積極的に提案を立案し、詳細についてはさらに次回に検討することとした。

②新たな企画として、「環境研究助成に関する説明会」を開催したい旨が、目代委員から提案があった。目代委員が所属する自然保護協会など、複数の団体では、環境関係の研究助成を実施している。直接研究者と助成者が対話をすることで、より効率的で質の高い研究助成の実現が期待できる。目代が中心となって提案書を作る。

>科学のための科学助成か？社会のための科学助成かの判断が重要であり、そのような

判断ができる場が望まれる。

★情報交換の活性化

初年度の委員会活動は、残念ながらあまり活発とは言えなかった。その現状への反省を含め、今後の委員会活動方策について議論を行った。

- ・本委員会が分野横断型の研究窓口となりうるか？ 現状ではよくわからない。突発災害予算の獲得なども視野にいれつつ活動の仕方を考えていく。
- ・委員会のHPを作る：昨年度の懸案であったが実現していない。
 - ＞広報委員会と連絡をする。委員会議事録を掲載する（松本）。
 - ＞各学会の災害関係の委員会にリンクを貼る（吾妻）。
- ・昨年度提案のあった各学協会の活動の個別紹介は JGL の趣旨には合致しないため、むしろトピックス的内容での掲載を本委員会から提案していく。例えば都市型水害など(松本)。
- ・災害対応委員会のメーリングリストをもっと意見交換の場として活用すべき。

★その他

- ・連合における本委員会の開催日を、災害関係セッション開催日に充てるなど、工夫してほしいという要望があり、来年度以降は考慮する方針とした。
- ・次回：来年度の大会のプログラム提案に委員会の意思を反映させるべく、大会時のみでなく10月ころに委員会を開催することとした。